Book Preview

富山高校図書館　2020.7

『　**ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー**　』　　ブレイディ みかこ／著

優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜのイカした「元・底辺中学校」だった。ただでさえ思春期ってやつなのに、毎日が事件の連続だ。人種差別丸出しの美少年、ジェンダーに悩むサッカー小僧。時には貧富の差でギスギスしたり、アイデンティティに悩んだり……。何が正しいのか。正しければ何でもいいのか。生きていくうえで本当に大切なことは何か。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の息子と パンクな母ちゃんの著者は、ともに考え悩み乗り越えていく

『　**ノースライト**　』　　横山 秀夫／著

一級建築士の青瀬は、信濃追分へ車を走らせていた。望まれて設計した新築の家。施主の一家も、新しい自宅を前に、あんなに喜んでいたのに…。Ｙ邸は無人だった。そこに越してきたはずの家族の姿はなく、電話機以外に家具もない。ただ一つ、浅間山を望むように置かれた「タウトの椅子」を除けば…。このＹ邸でいったい何が起きたのか？

『　ちくま文庫　**学校って何だろう**　』　　苅谷 剛彦／著

「どうして勉強しなければいけないの？」「なぜ毎日学校へ通わなければいけないの？」こうした疑問には、大人になった今でもなかなか答えづらい。他にも、「どうして校則でソックスの色まで決められてるの？」とか「教科書ってほんとに必要なの？」など、生徒たちの疑問は尽きない。これらに対する答えはひとつではない。これまで考えられてきた学校や勉強についての「常識」を複眼的に問いなおし、「学ぶことの意味」をふたたび掴みとるための基本図書。

『　新潮文庫　**それでも、日本人は「戦争」を選んだ**　』　　加藤 陽子／著

膨大な犠牲と反省を重ねながら、明治以来、四つの対外戦争を戦った日本。指導者、軍人、官僚、そして一般市民はそれぞれに国家の未来を思いなお参戦やむなしの判断を下した。その論理を支えたものは何だったのか。鋭い質疑応答と縦横無尽に繰り出す史料が行き交う中高生への５日間の集中講義を通して、過去の戦争を現実の緊張感のなかで生き、考える日本近現代史。小林秀雄賞受賞。

『　**数学でわかる１００のこと**　』　　バロウ, ジョン・D．／著

なぜ空港や郵便局で列に並ぶと、決まってほかの列のほうが早く進むように感じるのか？仲の良い二人の間にもう一人が入ってくると人間関係が崩れてしまうのはなぜ？離婚調停に双方が納得できる公平な解決策はあるのか？…ありふれた日常の出来事について、数学で考えてみる。「よくあること」には必ず、数学の「よくある仕組み」が組み込まれていた！平凡な世界の見え方を刷新する、ユニークで斬新な数学応用例集。